

Berlioz
(1803~1869)



Brahms
(1833~1897)



Sibelius
(1865~1957)



上越交響楽団
第59回定期演奏会

Joetsu Symphony Orchestra/The 59th regular concert

日時

2006年9月17日(日)
開場18:00/開演18:30

会場

上越文化会館
大ホール

■指揮

吉井俊哉

■客演コンサートマスター

三溝健一

■主催

上越交響楽団

ルイ・エクトル・ベルリオーズ
Louis Hector Berlioz(1803~1869)

序曲「ローマの謝肉祭」 作品9

Overture "The Roman Carnival", Op.9

アレグロ・アッサイ・コン・フォコ - アンダンテ・ソステヌート - アレグロ・ビバーチェ

ベルリオーズは19世紀フランスの作曲家。作家の大デュマ、ユーゴ、画家のドラクロワと同世代で、19世紀フランスのロマン主義運動の代表的存在である。彼は1930年から2年間イタリアのローマに留学し、帰国後イタリアを題材に歌劇「ベンヴェヌート・チェルリーニ」を1838年に初演した。この上演は失敗に終わるが、一部分を編曲して演奏会用序曲「ローマの謝肉祭」を完成させ、1844年2月3日(ベルリオーズ40歳)にベルリオーズ自身の指揮でパリで初演され、今度は好評を得たとのことである。曲は短い導入部に続き、イングリッシュホルンのソロによるゆったりしたメロディーが奏される。その後、軽やかな謝肉祭の音楽がサルタレロという踊りのリズムに乗って始まり、華やかに盛り上がる。一時静まった後、前半のメロディーがフーガ様に再現してフィナーレを迎える。

ヨハネス・ブラームス
Johannes Brahms(1833~1897)

ハイドンの主題による変奏曲 作品56a

Variations on a Theme by Haydn, Op.56a

主 題 アンダンテ、変ロ長調
第1変奏 ポコ・ビウ・アニマート、変ロ長調
第2変奏 ビウ・ビバーチェ、変ロ短調
第3変奏 コン・モート、変ロ長調
第4変奏 アンダンテ・コン・モート、変ロ短調
第5変奏 ビバーチェ、変ロ長調
第6変奏 ビバーチェ、変ロ長調
第7変奏 グラチオーゾ、変ロ長調
第8変奏 プレスト・ノン・トロツポ、変ロ短調
終 曲 アンダンテ、変ロ長調

ブラームスは北ドイツ・ハンブルグ出身のドイツロマン派を代表する作曲家。後半生はウィーンにて多くの作品を発表し、当時のヨーロッパ音楽界の中心的存在であった。変奏曲は彼の得意分野であり、この曲をはじめ、交響曲第4番の終楽章やピアノ曲の「バガニエーニの主題による変奏曲」など傑作が多い。この曲には、基本的に同じ構成であるピアノ四手用と管弦楽用の2種があり、本日演奏される管弦楽版は、1873年11月2日ウィーンフィルハーモニーの第1回演奏会にて初演された。曲は主題と8つの変奏および終曲によって構成されているが、各々密接な関係を保ち、全体として交響曲的な構成も持っている。主題は「聖アントニーのコラール」と題された簡潔で美しい賛美歌調の音楽で管楽合奏と低音弦楽器で演奏される。なお、この曲の主題はハイドンの弟子プライエル(有名なピアノ会社の創設者)の作であることがその後判明したが、作曲当時はハイデン作とされていたため「ハイドンの主題による変奏曲」との呼称が定着している。第1変奏から第8変奏は楽器編成を変化させながら、各曲毎に独立した性格も備えている。終曲のみ他の変奏より大規模に構成され、18の変奏からなるパッサカリア形式をとっている。

休 憩

ジャン・シベリウス
Jean Sibelius(1865~1957)

交響曲第2番二長調 作品43

Symphony No.2 in D major, Op.43

第1楽章 アレグレット
第2楽章 テンポ・アンダンテ・マルバート
第3楽章 ビバーチッシモ
第4楽章 アレグロ・モデラート

シベリウスは19世紀末から20世紀前半に活躍したフィンランドを代表する作曲家。24歳でドイツのベルリンに留学し、リヒャルト・シュトラウスなどの後期ロマン派管弦楽作品に影響を受けた。第2交響曲はイタリア滞在中の1901年に作曲を開始し、1902年3月8日ヘルシンキでシベリウス自身の指揮で初演された。全体的な構成は4楽章の伝統的な交響曲の形式で各楽章もソナタ形式を基本としている。

第1楽章……弦楽器のざわめきを伴奏に木管楽器が奏でる第1主題と力強い第2主題による、田園的な雰囲気をもつ楽章。
第2楽章……ファゴットにより提示されるほの暗い第1主題とヴァイオリンで提示される安らかな第2主題による、幻想的な音楽。
第3楽章……弦楽器の荒々しいスケルツォと木管楽器によるゆったりしたトリオ部分が2回繰り返される。そして第4楽章の主題が登場し盛り上がったところで休みなくフィナーレに突入する。
第4楽章……弦楽器にトランペットが勇壮に應える第1主題とうごめくような低弦に伴奏された木管楽器による第2主題が繰り返され、終結部では金管楽器がファンファーレを奏で全曲を閉じる。